



報道発表資料の配付日時 3月10日(木)10時00分

発表項目 (行事名)	令和3年度(2021年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について																	
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者																
		発表場所																
	<p>令和3年度(2021年度)第2回タンチョウ越冬分布調査を次のとおり実施しました。</p> <p>1 調査実施日時等</p> <table border="1"> <tr> <td>調査日時</td> <td>1月25日(火) 14:45～15:15</td> </tr> <tr> <td>調査区域</td> <td>7振興局35市町村</td> </tr> <tr> <td>調査箇所</td> <td>計306箇所</td> </tr> <tr> <td>調査協力者</td> <td>関係市町村・給餌人等 計171人</td> </tr> </table> <p>環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと、北海道委嘱給餌場である釧路市音別及び標茶町の計5大給餌場は、各給餌場の給餌時間帯に調査を実施しました。</p> <p>2 タンチョウ確認羽数</p> <table border="1"> <tr> <td>計 1,525 羽</td> <td>野生個体 : 1,489羽</td> <td>飼育個体 : 36羽</td> </tr> </table> <p>〔野生個体の内訳〕</p> <table border="1"> <tr> <td>成鳥・幼鳥別</td> <td>成鳥:1,359羽、幼鳥:90羽、不明:40羽</td> </tr> <tr> <td>振興局別</td> <td>釧路:1,382羽、十勝:73羽、根室:34羽</td> </tr> </table> <p>3 調査結果に対する有識者(正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)のコメント概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年は過去最多であった前年同期より11羽(野生個体)多く、昭和27年の調査開始以来、過去最多の羽数を記録。 ○ 一方、幼鳥数は90羽で最近10年間では最も少ない。主要な原因として営巣・抱卵期における広範囲の異常な降雨量が考えられる。 ○ 今回の目撃地域は、釧路、十勝、根室の3振興局管内のみで、前年同期に目撃された胆振、日高振興局管内では確認されなかったが、本調査以外で得られた情報から、分布管内数は減少していないとみなせる。 			調査日時	1月25日(火) 14:45～15:15	調査区域	7振興局35市町村	調査箇所	計306箇所	調査協力者	関係市町村・給餌人等 計171人	計 1,525 羽	野生個体 : 1,489羽	飼育個体 : 36羽	成鳥・幼鳥別	成鳥:1,359羽、幼鳥:90羽、不明:40羽	振興局別	釧路:1,382羽、十勝:73羽、根室:34羽
調査日時	1月25日(火) 14:45～15:15																	
調査区域	7振興局35市町村																	
調査箇所	計306箇所																	
調査協力者	関係市町村・給餌人等 計171人																	
計 1,525 羽	野生個体 : 1,489羽	飼育個体 : 36羽																
成鳥・幼鳥別	成鳥:1,359羽、幼鳥:90羽、不明:40羽																	
振興局別	釧路:1,382羽、十勝:73羽、根室:34羽																	
参 考																		

報道(取材)に当たってのお願い	<p>本調査では、関係市町村をはじめ、多くの関係者の方々の御協力をいただいております。</p> <p>また、北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社(JAL)と平成29年度から協働で調査を実施しておりますので、積極的な報道をお願いします。</p>
-----------------	--

他のクラブとの関係	<p>同時配付 : 同時レク :</p>
-----------	--------------------------

(連絡先)	<p>環境生活部環境局自然環境課企画調整係 主幹 橋本 (ダイヤル : 011-204-5987 又は 代表 : 011-231-4111 内線24-389) ※個別の調査内容については、次の(総合)振興局環境生活課自然環境係までお問い合わせ願います。</p>			
	区 分	電話番号	区 分	電話番号
	空知総合振興局	0126-20-0043	十勝総合振興局	0155-26-9028
	胆振総合振興局	0143-24-9577	釧路総合振興局	0154-43-9154
	日高振興局	0146-22-9254	根室振興局	0153-23-6823
	林檎総合振興局	0152-41-0630		

令和3年度(2021年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布、規模の把握等を目的に、給餌人の御協力のもと、環境省委嘱給餌場等の大規模給餌場を中心にタンチョウの飛来数、幼鳥の有無等を把握するとともに、関係機関等の御協力のもと、給餌場、自然採餌場や農家の存在等の分布要因に着目してタンチョウの所在位置情報について収集しました。

2 調査日時

令和4年(2022年)1月25日(火) 午後2時45分～午後3時15分

※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと北海道委嘱給餌場である釧路市音別及び標茶町の計5大給餌場は、各給餌場の給餌時間帯に調査を実施しました。

3 調査区域及び調査箇所

- (1) 調査区域 7(総合)振興局、35市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地
- (2) 調査箇所 合計306箇所

○調査地点所在市町村数の推移 (市町村)

振興局	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	8	8	8	8	8	8
十勝	11	12	11	7	11	7
根室	4	3	4	3	4	3
オホーツク	5	3	5	4	4	3
宗谷	4	-	3	-	4	-
日高	2	3	2	3	2	2
胆振	4	3	4	3	4	2
空知	2	3	1	1	3	1
石狩	1	-	3	1	-	-
留萌	-	-	-	-	1	-
合計	41	35	41	30	41	26

○調査箇所数の推移 (箇所)

振興局	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	202 →(訂正) 203	182	192	173	174	143
十勝	78	78	64	58	71	38
根室	19	15	21	16	21	16
オホーツク	15	7	15	8	14	7
宗谷	6	-	6	-	4	-
日高	5	8	6	8	6	7
胆振	13	8	14	9	13	8
空知	8	8	2	2	9	1
石狩	3	-	4	1	-	-
留萌	-	-	-	-	1	-
合計	349 →(訂正) 350	306	324	275	313	220

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道(環境省委託)

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、タンチョウ給餌人、日本航空株式会社、鳥獣保護監視員等

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳				
		関係市町村	関係市町村 教育委員会	タンチョウ 給餌人	鳥獣保護監視 員・自然保護監 視員等	その他
釧路	129	32	15	13	9	60
十勝	21	18				3
根室	15	4	2	3	1	5
オホーツク	0					
日高	2	1				1
胆振	1					1
空知	3	2			1	
合計	171	57	17	16	11	70

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和3年度第1回				令和3年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	666	58	0	724	1,265	80	37	1,382
十勝	126	9	0	135	65	5	3	73
根室	14	1	0	15	29	5	0	34
オホーツク	8	1	0	9	0	0	0	0
宗谷	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	8	2	0	10	0	0	0	0
胆振	3	0	0	3	0	0	0	0
空知	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	2	0	0	2	-	-	-	-
小計	829	72	0	901	1,359	90	40	1,489
飼育個体	35	1	0	36	35	1	0	36
合計	864	73	0	937	1,394	91	40	1,525

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	令和2年度第1回				令和2年度第2回				令和元年度第1回				令和元年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	693	110	61	864	1,240	129	23	1,392	864	96	78	1,038	1,144	95	7	1,246
十勝	126	16	0	142	44	6	0	50	114	24	0	138	50	7	0	57
根室	28	9	0	37	23	4	0	27	21	3	0	24	23	2	0	25
オホーツク	4	1	0	5	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0
宗谷	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	0	0	0	0	5	1	0	6	6	0	0	6	3	0	0	3
胆振	6	2	0	8	2	1	0	3	2	0	0	2	2	0	0	2
空知	2	1	0	3	0	0	0	-	2	0	0	2	-	-	-	-
留萌	0	0	0	0	0	0	0	-	1	0	0	1	-	-	-	-
小計	859	139	61	1,059	1,314	141	23	1,478	1,014	123	78	1,215	1,222	104	7	1,333
飼育個体	36	2	0	38	36	2	0	38	36	0	0	36	37	0	0	37
合計	895	141	61	1,097	1,350	143	23	1,516	1,050	123	78	1,251	1,259	104	7	1,370

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査当日の気象状況

○令和3年度第2回調査（令和4年1月25日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	晴	-2.0℃	西南西	4.0 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-3.7℃	北東	1.6 m/s	帯広測候所
根室	曇	-3.4℃	北北西	6.6 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.9℃	北西	2.7 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-0.8℃	北西	1.7 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-2.0℃	西北西	0.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	晴	-3.2℃	北北西	0.4 m/s	札幌管区気象台

○令和2年度第2回調査（令和3年1月26日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	曇	-5.3℃	南南東	2.8 m/s	釧路地方気象台
十勝	曇	-5.9℃	東	0.9 m/s	帯広測候所
根室	晴	-7.1℃	東南東	2.4 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-8.5℃	東	2.3 m/s	網走地方気象台
日高	曇	-0.5℃	南東	7.1 m/s	室蘭地方気象台
胆振	雪	-0.2℃	南東	5.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-1.2℃	南	3.6 m/s	札幌管区気象台
石狩	曇	-1.3℃	南南東	5.0 m/s	札幌管区気象台

※<参考>令和元年度第2回調査（令和2年1月24日 午後3時）

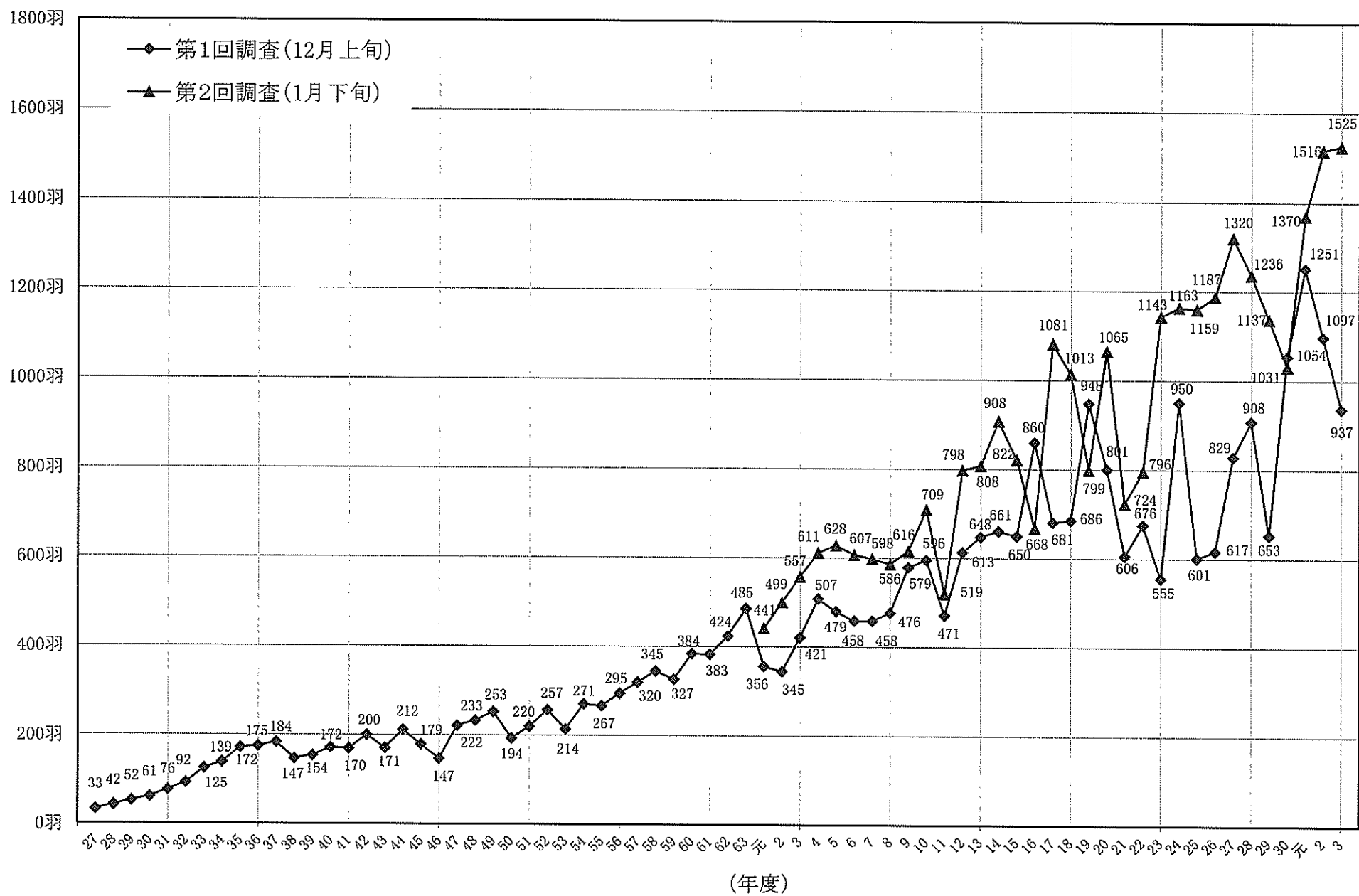
振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	快晴	0.2℃	西	16.0 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-2.5℃	西北西	7.9 m/s	帯広測候所
根室	雪	-2.1℃	北北西	7.8 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	曇	-3.7℃	北西	7.3 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-3.0℃	北北西	4.9 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-3.0℃	北北西	7.4 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-5.0℃	北西	7.2 m/s	札幌管区気象台

7 タンチョウ確認羽数（市町村別）

(羽)

市町村	令和3年度第1回				令和3年度第2回				
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	
釧路	釧路市	43	3	0	46	13	1	1	15
	釧路市阿寒町	74	8	0	82	157	8	0	165
	釧路市音別町	83	3	0	86	201	4	2	207
	釧路町	2	0	0	2	3	0	0	3
	厚岸町	21	3	0	24	0	0	0	0
	浜中町	22	2	0	24	65	6	0	71
	標茶町	110	8	0	118	236	14	8	258
	弟子屈町	7	0	0	7	7	1	0	8
	鶴居村	291	29	0	320	577	44	26	647
	白糠町	13	2	0	15	6	2	0	8
十勝	音更町	3	0	0	3	4	1	0	5
	上士幌町	2	1	0	3	0	0	0	0
	清水町	-	-	-	-	0	0	0	0
	大樹町	63	4	0	67	42	3	0	45
	広尾町	0	0	0	0	1	0	0	1
	幕別町	12	2	0	14	15	1	3	19
	池田町	5	0	0	5	0	0	0	0
	豊頃町	17	2	0	19	0	0	0	0
	本別町	0	0	0	0	0	0	0	0
	足寄町	2	0	0	2	0	0	0	0
	陸別町	3	0	0	3	0	0	0	0
	浦幌町	19	0	0	19	3	0	0	3
	根室	根室市	0	0	0	0	6	1	0
別海町		6	0	0	6	15	1	0	16
標津町		2	1	0	3	-	-	-	-
中標津町		6	0	0	6	8	3	0	11
オホーツク	網走市	2	0	0	2	0	0	0	0
	小清水町	2	0	0	2	0	0	0	0
	斜里町	0	0	0	0	-	-	-	-
	大空町	4	1	0	5	0	0	0	0
	美幌町	0	0	0	0	-	-	-	-
宗谷	豊富町	0	0	0	0	-	-	-	-
	浜頓別町	0	0	0	0	-	-	-	-
	枝幸町	0	0	0	0	-	-	-	-
	幌延町	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	日高町	5	2	0	7	0	0	0	0
	平取町	3	0	0	3	-	-	-	-
	新冠町	-	-	-	-	0	0	0	0
	えりも町	-	-	-	-	0	0	0	0
胆振	苫小牧市	2	0	0	2	0	0	0	0
	厚真町	0	0	0	0	0	0	0	0
	安平町	0	0	0	0	0	0	0	0
	むかわ町	1	0	0	1	-	-	-	-
空知	由仁町	-	-	-	-	0	0	0	0
	長沼町	2	1	0	3	0	0	0	0
	栗山町	0	0	0	0	0	0	0	0
石狩	千歳市	2	0	0	2	-	-	-	-
小計		829	72	0	901	1,359	90	40	1,489
飼育個体		35	1	0	36	35	1	0	36
合計		864	73	0	937	1,394	91	40	1,525

タンチョウ越冬分布調査（生息状況一斉調査）結果の推移グラフ（飼育個体含む）

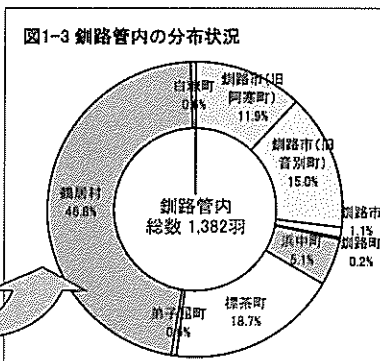
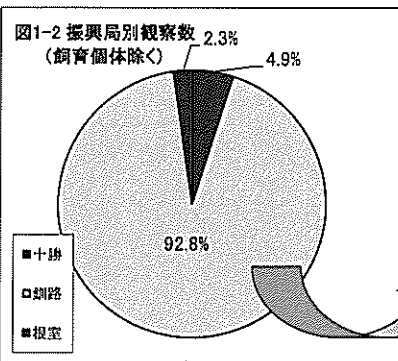
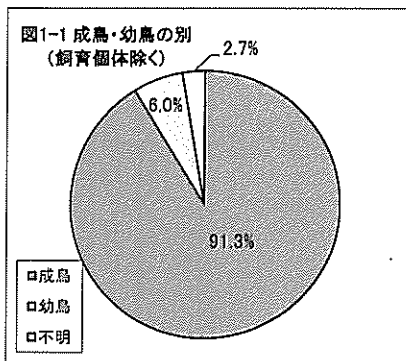


令和3年度第2回タンチョウ越冬分布調査結果(振興局別、観察場所別、給餌の有無等による分布状況)

1 振興局別分布(飼育個体を除く)

	成鳥	幼鳥	不明	合計
十勝	65	5	3	73
釧路	1,265	80	37	1,382
根室	29	5	0	34
合計	1,359	90	40	1,489

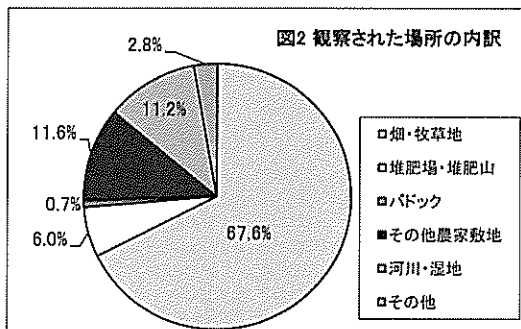
※飼育個体を除いた野生個体1,489羽について分析を行っています。



2 観察された場所の内訳

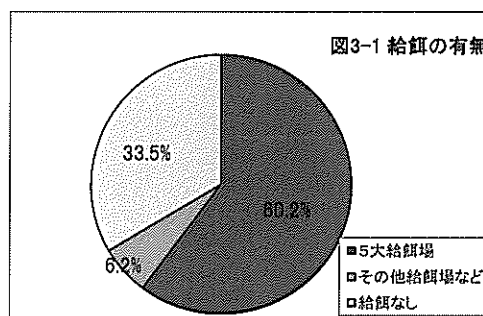
	①畑・牧草地	②堆肥場・堆肥山	③パドック	合計
十勝	18	7	0	25
釧路	982	72	11	1,065
根室	7	11	0	18
合計	1,007	90	11	1,108

	④①-③以外農家敷地	⑤河川・湿地	⑥その他	合計
十勝	42	1	5	48
釧路	119	164	34	317
根室	11	2	3	16
合計	172	167	42	381



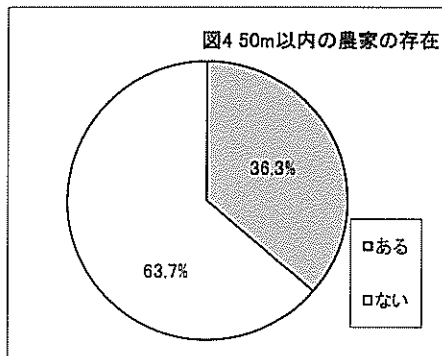
3-1 給餌の有無

	給餌あり (給餌場など)	(うち5天給餌場)	給餌なし	合計
十勝	5	-	68	73
釧路	981	(897)	401	1,382
根室	4	-	30	34
合計	990	(897)	499	1,489



4 50m以内の農家の存在

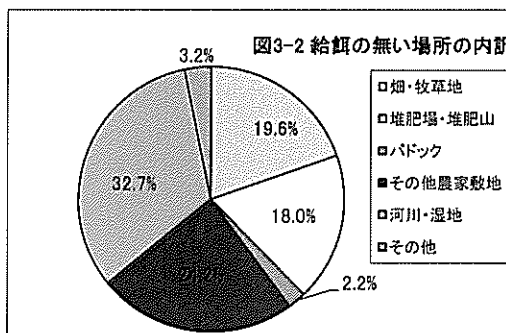
	ある	ない	合計
十勝	23	50	73
釧路	485	897	1,382
根室	32	2	34
合計	540	949	1,489



3-2 給餌のない場所の内訳

	①畑・牧草地	②堆肥場・堆肥山	③パドック	合計
十勝	18	7	0	25
釧路	75	72	11	158
根室	5	11	0	16
合計	98	90	11	199

	④①-③以外農家敷地	⑤河川・湿地	⑥その他	合計
十勝	42	1	0	43
釧路	70	160	13	243
根室	9	2	3	14
合計	121	163	16	299



2022年1月25日（令和3年度第2回）実施の

タンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

はじめに

前年に続き、15時を中心とする30分内に目撃されたタンチョウの所在位置、幼鳥・成鳥別羽数、生息地の環境などの調査が行われた。ただ、午後の短時間観察だけでは個体数の確実な把握ができなため、鶴居村や標茶町ではねぐらや大規模給餌場での午前の観察記録が採用されている。

なお、このコメントでは、これまでと同様に飼育個体を除く羽数を対象とし、年度内の第1回調査を「12月調査」、第2回調査を「1月調査」と記したほか、行政区を示す際に振興局の表記を省略している。

1. 記録羽数とその特徴

1-1. 総羽数

今回の記録羽数は1,489（成鳥1,359、幼鳥90、不明40）羽で、今年度第1回調査（2021年12月3日実施）の時より588（成鳥+530、幼鳥+18、不明+40）羽多かった。また、過去最多を示した昨年同期と比べると総数で11（成鳥+45、幼鳥-51、不明+17）羽とわずかではあるが多く、これまでの最多記録となった。ただし、成鳥数（亜成鳥を含む）は過去最多であるが、幼鳥は今世紀になってから13番目の低い記録数である。

1-2. 増減の割合

12月調査に比べると、総数は1.7倍を示し、成鳥は1.6倍、幼鳥は1.3倍なのに対し、12月に不明が0羽であったが、今回は40羽を数えている。

前年同期と比較すると、前年は成鳥数が10.9%増を示したのに今年は3.4%にとどまり、幼鳥にいたっては前年同期を大きく下回り（前年の63.8%）、大幅な減少率を示したのが特色である。

1-3. 各給餌場の飛来数

阿寒、下雪裡、中雪裡の三大給餌場に、音別と中茶安別の給餌場を加えた、いわゆる五大給餌場では、下雪裡給餌場（通称鶴見台、以下給餌場を省略）が309羽で最も多く、次いで中茶安別201羽、中雪裡（通称サンクチュアリ）168羽、音別154羽、阿寒（通称鶴の里）65羽の順で、前年最少であった中茶安別が2番目になり、音別と阿寒は入れ替わり後者が最少となった。いわゆる三大給餌場では環境省による給餌量削減が行われており、特に阿寒はその影響なのか、二桁台の羽数（他の給餌場と調査時刻が異なるため、給餌時は三桁台を示すが最少であることに変わらない）に留まった。給餌量削減前の2014年1月の調査で阿寒は229羽と五大給餌場最多であったことからみて、その羽数低下は、音別と中茶安別の増加とともに注目すべきである。

1.4 個体数について

前述のように記録羽数が今年は過去最多を示したが、例えば、調査日と同日に、日高管内で民間保護団体の会員により11羽が確認されたものの、調査員の目撃でないため本調査記録には含まれていない。

したがって、今回の結果も実際より数百羽ほど少ない数値である可能性が高い。それでも、近年記録数の少なかった十勝管内で、前年の 50 羽から、今年は 23 羽増の 73 羽が記録された。その背景として、調査地区数を前年の 58 ヲ所から今年は 78 ヲ所へ増やし、調査協力者も 13 人から 21 人へ増員したことを無視できない。それにより、前年の確認地区数 9 ヲ所に対し今年は 16 ヲ所を数え、発見率（確認地区数/調査地区数）も向上したのは大きな意味を持ち、行政における調査地区数増と調査者増員の配慮を多としたい。

ただ、確認数の増加が、個体数の実質増加か、それとも未発見数を減らしたための増加か否かを判定するのは難しい。したがって、より正確な分布・個体数とその変動把握を目指すには、さらに多くの調査地区とそれに従事する調査協力者の増加が必要である。

2. 分布状況

2-1. 分布管内数

今回の目撃地域は、釧路、十勝、根室の 3 管内で、12 月調査よりも 5 管内、前年同期より 2 管内それぞれ少ない。前年との比較では、2012 年度から継続生息が確認されていた日高管内と、2019-2020 年度と 2 年続いた胆振管内で記録がない。しかし、胆振管内での生息も确实視されているほか、既述のように日高管内で二桁の羽数の越冬が確認されており、実際の分布管内数は減少していないとみなせる。

2-2. 各管内への集中度

管内別の目撃羽数割合は、釧路管内が 92.8%、十勝 4.9%、根室 2.3%となり、前年に比べて釧路が 1.4 ポイント減少し、十勝 1.5 ポイント、根室が 0.5 ポイント増加している（図 1-2）。しかし、胆振と日高両管内に生息している羽数を加えて割合を仮に算出してみると、釧路が 2.4 ポイント、胆振が 0.1 ポイントそれぞれ減少し、日高が 0.9%で 0.5 ポイント増加し、十勝・根室は上記と同じ増加を示す。

以上のことは、釧路管内の割合が低下し、胆振を除く管内で割合が増加していることを示すが、その変化の理由は特定できない。釧路管内の過密を避けた個体群成長による増加、釧路管内以外での調査精度の向上、釧路管内からの移動などが考えられるが、実態は不明である。

2-3. 市町村別の分布

今回タンチョウの生息が確認されたのは 2 市、12 町、1 村の計 15 自治体で、12 月調査より 1 市、13 町少ない。前年同期と比べても 1 市、1 町少ないが、胆振・日高両管内における既知の生息を仮に加えると、3 市、14 町、1 村の計 18 自治体となり、むしろ増加を示すことになる。

今年新規に生息の確認された自治体はなく、前年記録がありながら今年それが無いのは、胆振管内の苫小牧市、日高管内の日高町と新冠町、十勝管内の池田町の 1 市 3 町である。このうち 1 市 2 町は生息が別途確認されているので、自治体単位で見た分布の様相に、昨年と今年で大きな変化は見られない。

羽数の最も多かった自治体は鶴居村で、総数の 43.5%（前年比-3.7 ポイント）にあたる 647 羽を数え、次いで阿寒と音別に大給餌場を抱える釧路市が 26.0%の 387 羽（-2.2 ポイント）、3 位が標茶町で 17.3%の 258 羽（+4.6 ポイント）となり、この 3 自治体で総数の 86.8%を占め、昨年より 1.4 ポイント低い値である。しかし、この 3 自治体の生息数割合は年によりかなり変動するし、総数における割合も直近 5（2017-2021）年度の中では 4 番目の値で、経年的に低下する傾向はなく、餌削減の影響は不明である。

2-4. 利用環境

利用環境としては、給餌場に利用している草地や周辺の農耕地が 67.6%と最も多い。ただ、大給餌

場の給餌時刻に合わせて主に調査が行われたため、利用個体数の多さが反映されている点を考慮しておく必要がある（図2）。

また、給餌のない場所での利用（図3-2）として、河川・湿地が前年の8.1%から今年の32.7%へと大きく変動しているのも、今年は前年より調査日の気温が高く、水場の利用が可能だったことが関わり、50m以内の農家の存在（図4）の減少も、同様の要因が働いたと推測される。

3. 繁殖状況

今回確認された幼鳥数は90羽で、最近10（2011-2020）年間では最も少ない。今年は記録総数に成・幼不明が40羽含まれるため、これを除いた全体の中の割合も6.2%に過ぎず、最近10（2011-2020）年間の平均割合9.7（範囲7.8-13.9）%や、昨年141羽の記録と比べても極端に少ない値を示す。

では、何が起きたのであろうか。主要な原因は、営巣・抱卵期における広範囲の異常な降雨量と思われる。例えば、昨年4月中旬に十勝の浦幌では2020年の4倍近い雨が降り、1日の降水量も86.5mmを記録した。巣は低地に造られるため、1日50mm以上の雨が降ると繁殖率が低下することも知られており、こうした状況は釧路管内南部でも認められる。

ただ、釧路管内の内陸部や根室管内でも降水量増加は起きたが、水量が少ないため影響が大きくなく、この地域の個体が多く越冬すると思われる鶴居村での幼鳥割合は7.1%であった。これは上述の平均値より低いものの、今回の全体の平均値より高い7%台を保ち、降水量増加の影響が他地域より小さかったことを現しているのかもしれない。

4. 総括と提言

20世紀前半に、タンチョウが道東の一部で生存が確認されて以来、ヒトの保護のもとで個体数を増してきたが、反面集団化による鳥インフルエンザ発生などのリスクも増大してきた。そのため道東域からの分散も図られ、かつヒトの活動域への進出も起きていることから、現状の確実な把握がタンチョウ自体の保護のみならず、ヒトとの共存を図る上での必須課題となっている。

残念ながら、分布の現状についても、またその基になる個体数把握の点でも、この調査は十分とは言えない状態である。例えば今回も、道央圏での分布とその展開は、タンチョウという種の将来像を描く上で極めて注目すべき点でありながら、記録がすべて欠落している。こうしたことにより誤った判断がなされることも当然想定される。

幸いにも、今回は調査員以外の民間保護団体の方からの情報を得て誤りを回避できたが、同様の記録欠落が他にも起きているのは間違いない。したがって、これを正し、より精度を向上させるには、今年の十勝地区で成果が見られたように、調査従事者と調査個所数を増やすことに尽きる。限られた指定の協力者だけでそれを行うには限界があると思われるから、今回の日高地区のように一般人の情報も収集し、活用する手立てを講じるべきである。

環境省の発注を北海道が受注して、限られた人数の指定協力者を主体に当該の調査を行っているが、精度に問題があるため、一般人参加による調査方法へ転換する必要性をこれまで繰り返し指摘してきた。全面的な転換に踏み切れないのであれば、今年の日高地区のように、主軸は指定の調査協力者に依頼するとしても、一般人からの情報提供も広く呼び掛け、確かな情報は記録に加えるなど、精度向上のためいくつかの改善策は考慮可能であり、次年度からの実施を強く望みたい。同時に、一般人の調査参加を求めることは、タンチョウとヒトとの共存を広く理解してもらう上で有効な手立てとして働くことは間違いない。